

平成 28 年度定時評議員会の運営について

1. 日時 4 月 23 日(土) 午後12:30受付開始

2. 場所 母校7階視聴覚教室

3. タイムスケジュール

午後12:30 受付開始

午後 1:00～2:10 講演会、質疑応答

午後 2:30～4:00 評議員会

4. 講演会(兼第 196 回金蘭会セミナー)

①講師 金岡克弥氏

株式会社人機一体 代表取締役 社長

立命館大学 総合科学技術研究機構 ロボティクス研究センタ 客員研究教員(教授)

②演題 「今、日本で、異端のロボット工学者が成すべきこと」(注)

③案内対象 セミナー会員、評議員、母校生徒

④聴講料は無料(弁当・菓子は提供しない)

5. 定時評議員会

事業計画、予算、記念事業計画、会則改正、各委員会報告、その他

6. 準備

①評議員会案内

封書とする。返信用はがき(評議員会・講演会出欠・委任状)同封

②金蘭会セミナー案内 往復はがき

※母校生徒受入人数の目途を立てるため締切を4月8日とする

※重複チェックが必要。

(注)講演要旨

かつて次世代ロボットは、自動車に次ぐ一大産業となり近未来の日本を支える、と言われました。そして今、東京オリンピックを控え、ロボット分野はまた盛り上がりを見せています。しかし、人間の欲望の本質を捉えた「真の」ニーズを捉えた次世代ロボットでなければ、そのような発展は画餅に過ぎないと考えます。

震災を経てもなお、日本の「次世代ロボット」の多くは、研究のための(後追い)研究、開発のための(後追い)開発となっているようにも見えます。独創ではなく、資金の有無や理解されやすさを研究開発のドライビングフォースとし、実用性を謳う研究成果が実用に届かないならば、それは工学者として慚愧に堪えない状況です。

本講演では、そうした現状を概観した後、ロボット工学の本質、「真の」ニーズとは何か、それを捉えるための発想の転換、そして、人を幸せにする次世代ロボットとはどのようなものか、を探ります。さらに、その思想に基づく我々のプロジェクト、「マンマシンシナジーエフェクタ(人間機械相乗効果器)」および「人型重機開発」について概説します。

参考リンク:<http://www.mmse.jp/kanaoka/>